

北大山岳館の30年

1995～2024年

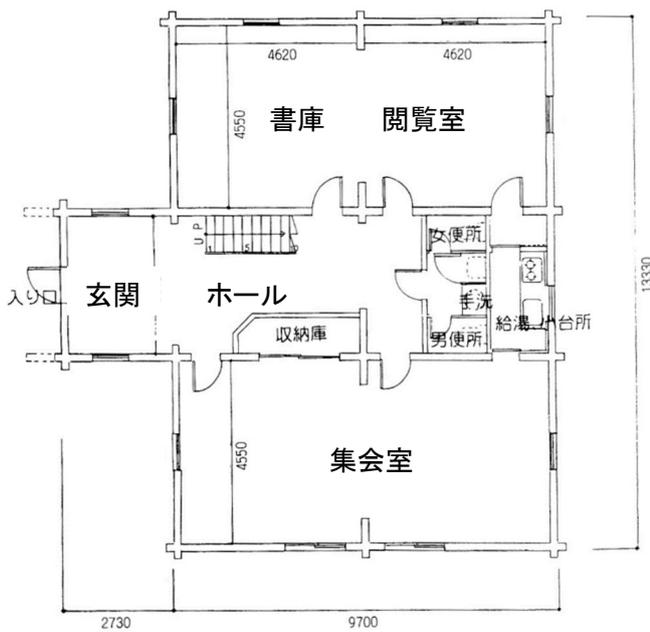


北大山岳部・北大山の会

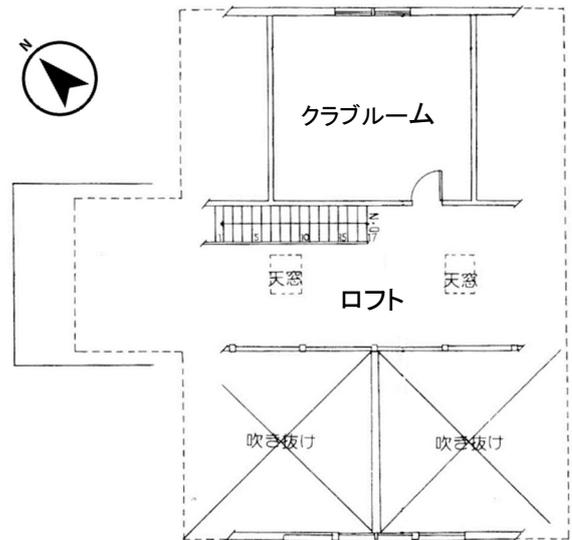
表紙の絵は、芳賀淳子さんの水彩画「北大山岳館」（2012年）を
グレースケールに変換しました。



北大山岳館外観 2024年2月



1階平面図



2階平面図



1階ホール



1階集会室



1階書庫



閲覧室からみた書庫



2階クラブルーム



2階ロフト

北大山岳館建設の趣意

北大山岳館は、北大山岳部が創立 70 周年を迎えるにあたり、山岳部出身者の会である山の会が、その記念事業の一環として建設し、北海道大学に寄贈したものであります。

山岳館建設の目的は、登山、探検、地球環境保全、途上国援助などに関心の深い学生諸君に会合の場を提供し、また大学内外の先達、先輩たちとの交流の場として役立てることにあります。さらに、北大山岳部が創立以来収集・保有してきた内外の山岳、探検に関する図書、地図等を整理・保管し、新たな資料も加えて有効な活用を図ることも目指しています。

この山岳館が北大独自の学生施設となり、自然を愛する学生諸君の活動と発想の拠点として、今後永く利用されることを願うと共に、建設の趣旨に賛同され多大のご支援を賜った多くの方々に深甚なる謝意を表します。

1995 年 3 月 6 日

北大山の会

(北大山岳館玄関ホールに掲げられた趣意文。4 頁参照)

北大山岳館の 30 年

北大山岳館は北大山岳部創立 70 周年の記念事業として 1995 年に建てられた。それから 30 年がたち、山岳館は、当初想定されていた、山岳資料館や集会・会議室としての機能のみならず、さまざまな文化活動の拠点となってきた。2026 年に、北大山岳部は創部 100 年の節目を迎える。この機会に、山岳館運営委員会では、山岳館の 30 年史をまとめることにした。北大山の会の会報や山岳館運営委員会の記録類ほかを参照して作製した年表のほか、項目別の文献数、地形図、出版物、講演会・展示会活動、登山装備や絵画などの収蔵物品の一覧表を作製した。以下、山岳館の建設構想から建設後 30 年間の活動について、いくつかの時代区分を設けて、述べてみたい。

小泉章夫

1. 山岳館建設にいたるまで（～1994 年）

北大山岳部は、スキー部から分かれて独立する 1926 年以前から、資料や書籍を所蔵し、収集してきた。それらは部員の山行報告、国内山岳界の記録や図書、極地やアジア西域の探検記のほか、戦前に山岳部で構想されていたヒマラヤ遠征計画の資料とすべく入手した洋書や洋雑誌も含んでいた。戦後は、部内に極地研究会や海外研究会がおかれ、関連の文献も増えていった。それらの資料は、山岳部のルーム（部室）に置かれてきたが、資料が増え、度重なるルームの移転でスペースが手狭になってきたこともあって、1980 年代には、資料を適正に保管することが難しくなっていた。当初の山岳館の建設目的は、そうした資料を一箇所に集め、自由に閲覧できるスペースをつくることであった。

1970 年代前半、ルームが文連会館（旧農経講堂）にあった頃までは、室内に書籍を配架する十分なスペースがあったが、1976 年に移った教養部テニスコート裏のサークル会館は天井が低く、遭難した仲間たちの遺影をかける壁のスペースにも事欠くありさまであった。さらに、1982 年、新サークル会館別棟に移った際には、図書の配架スペースが減ったことから、あまり読まれることのない、戦前の西域探検の書籍などは段ボールに箱詰めされたままとなってしまった。

1982 年のネパール・ダウラギリ峰冬季遠征の後、当時、中島公園付近にあった札幌市冬のスポーツ博物館で、ダウラギリ遠征隊の装備類の展示会が催された。その際に、博物館の担当者と協議して、山岳部の蔵書を寄託させていただくことができた。博物館では、蔵書類の虫干しをするなど、行き届いた保管をしていただいたが、一方で、山岳部員が手元において閲覧するには不便を感じていた。

1992 年、山岳部卒業生で組織する北大山の会（山田真弓会長、当時）は、上野八郎理事の事務所で、月例で理事会を開いていた。そこでの雑談では、山の会としてルームが欲しいということも、話題に上っていた。度重なる海外登山で、山の会の保存資料も増えていたのである。そういった流れで、獣医学部教授であった神谷正男理事が廣重 力総長にかけ

あい、学内に建設地を確保できる見通しをえたことから、山岳館構想が一気に具体化することになった。北大山の会は 7 月の総会で議論を経て、70 周年記念事業の準備委員会（東 晃委員長）を設置した。

準備委員会では、山岳館建設事業について、情報を集め、ニュースレターを送るなどして、会員に是非を問うた。その結果、賛意を示す意見が多く、建設事業は 1993 年 7 月の総会で承認された。山の会は、建設実行委員会（東委員長）のもとに、資金小委員会（中島秀雄委員長、荒生繁雄、小林 年、鈴木弘泰、相田 学、上野八郎、芝山良二、石島行三）、建設小委員会（西 安信委員長ほか）、運営小委員会（高松秀彦委員長、野田四郎、小枝一夫、佐々木幸雄、遠藤禎一、渡辺興亜、石田隆雄、神谷正男、西 信三、山田知充、丹羽由起夫、斎藤捷一、下沢英二、伏島信治、小泉章夫、清水 収、樋口和生、古川浩司、銭谷竜一、小倉憲悟、成田哲哉）を設けて、計画を進めることとした。

建設小委員会では、書庫・閲覧室と集会室を中心として、2 階小屋裏に部屋を設けたプランを考え、構造はログハウスとした。これは、1989 年に山の会会員有志が阿女鱒山荘を建設した経験を生かせる利点も考えたことである。ログ材は、米国の Log Cabin Homes 社から輸入し、エルム建設(株)の施工で建設することとなった。監理はヘルヴェチアヒュッテの改修でも世話になった伊皆和朗氏に依頼した。資金小委員会では、建物の建設費を中心に予算をたて、1993 年 12 月に山の会内外からの募金を開始した。

運営小委員会は、現役 4 名を含む各世代の 21 名を委員として、山岳館の利用・運営について検討した。その結果、山岳館の機能として 3 点に重点をおくこととした。第 1 はライブラリとしての機能であり、基本図書（山岳部の蔵書と寄贈図書）、山の会資料、および海外遠征資料を収集、保持する。第 2 は集会室としての機能であり、体育会に所属する山岳団体に集会場所を提供する。第 3 は山の会のラウンジとしての機能とし、2 階小屋裏に貴重品所蔵庫をかねたクラブルームを設けることにした。建物の名称は、当初、「AACH 極地山岳研究資料館」などが提案されていた。運営小委員会では「北大山岳資料館」を考えたが、最終的に「北大山岳館」に決まった。

諸々の準備が、上野委員が提供した事務所で進められ、建設地は恵迪寮東側の空き地と決まり、1994 年秋にはログ材などの資材が米国から船に積まれて、苫小牧に陸揚げされた。敷地の埋蔵文化財調査や財務局の許可に手間取って、建設開始が大幅に遅れたが、西 安信建設委員長が各所の調整に奔走し、また、建設工事がはじまってからはエルム建設(株)の尽力によって、1994 年 12 月、無事、竣工した。

2. 山岳館の創設期（1995～2003 年）

建物が完成した 1995 年 1 月には会員による館内整備が行われた。会員やその家族の手作りで、家具が整えられ、窓には手製のカーテンやブリーツスクリーンが取り付けられた。本棚には、山岳部の蔵書、会員から寄付された図書が配架され、文献リストのテキストファイルへの入力、運営小委員会によって、急ピッチで進められた。3 月までにすべての

蔵書、地図の入力を終えて、「北大山岳館文献目録」1号を発行したが、竣工前後に会員から図書や地図の寄付が相次いだことから、9月には、早くも第2号を発行することになった。文献目録は、その後も、大量の寄贈をうけた機会などに更新して、現在までに7号が発行されている。地図については、山岳館の竣工にあたって、渡辺興亜会員から南極の地形図118枚、スイスの地形図127枚が寄贈された（表3）。

3月4日、落成式を挙行し、6日に北大、廣重力総長への引き渡し式を行った。5月、3388万円の会計報告がなされた。会員からの寄付1450万円、会員外個人から521万円のほか、中島資金委員長の尽力で、企業・団体から1068万円にのぼる寄付を集めることができた。玄関ホールには、東委員長による「北大山岳館建設の趣意」が掲げられた。北大山岳館の建設目的と今後の活用への期待を述べたものである（1頁に掲載）。

山の会では、山岳館を管理・運営するため、山岳館運営委員会を新たに設置した。委員会は現役主任幹事を含む数名の委員で構成したが、とくに委員長はおかず、山岳部長がとりまとめて会計を預かる形で、山岳館の管理と運営にあたった。

1996年には、山口健児、桜井信雄、渡辺千尚、中野征紀ら、山岳部創立期の部員遺族からピッケルの寄贈が相次いだ。戦前に欧州で買い求めたシェンク、ベントなど、グリーンデルヴァルトの名工の作品のほか、国産では、札幌の門田のほか、秋田の森谷、仙台の山内のピッケルを収蔵している。装備類の寄贈は歴史的価値のあるものに限って受けてきた。スキー、ピッケル、シュタイクアイゼンの一部は、階段と2階ホールの壁に架台を設置して、展示している（表6）。

山岳館の周辺整備については、1996年から翌年にかけて、鮫島惇一郎、松田 彊会員らによって、建物周辺にアカエゾマツ、ハルニレ、コブシ、シラカンバ、イタヤカエデ、ハルニレなどの郷土樹種が植栽された。1997年から2001年にかけて、札幌市環状通りの付け替えと、山岳館の北側を東西に貫くエルムトンネルの工事が行われた。それに伴い、従来のサクシュコトニ川の流路を南側に移動する掘削工事も行われ、山岳館に進入できる車道がなくなるなどの事態となった。このため、1999年8月、杉野目 浩会長、松田山岳部長の連名で、学務部長に山岳館周辺の景観配慮、廃液処理施設の撤去、山岳館への車道新設を要望する文書を提出した。

新たなクラブルームを持った山岳部・山の会は、1995年以降、山岳部部員総会、山の会総会などの集会や会議を山岳館で開催している。2001年6月と10月には、前田仁一郎委員の発案で、「山岳館ピクニック」を開催して、現役部員と山の会会員が交流した。

3. 山岳館運営の活性化（2004～2007年）

2004年、山岳館では初めて、会員外からのまとまった図書の寄贈を受けた。河村章人会員の仲介で、京都大学学士山岳会の谷 博氏ご遺族から、300冊の図書が寄贈されたものである。ポカラの国際山岳博物館の立ち上げに尽力して帰国した安藤久男会員からは、ネパ

ール全土の 1/50000 地形図 116 枚の寄贈を受けた。2005 年には、坂本直行会員の旧宅で、つる夫人から 200 冊あまりの蔵書を受領した。

運営委員となった中村晴彦会員は、山岳館図書の在庫確認作業を行い、1995 年以来、更新されていなかった文献目録を更新して、2005 年、文献目録第 3 号を発行した。同年、中村委員は、山岳部創立期から現在にいたる部員たちが撮ってきた写真を収集してデジタル画像として保存する作業「記録写真保存計画」を提案し、7 月の総会で山岳部創立 80 周年記念事業として採択された。この写真データベースの構築には、芝山良二会員の病を押しての献身的な協力があり、また、夏休み期間には現役部員たちも、写真の取り込み作業を分担した。

このようにして取り込んだ写真画像は 7000 枚あまりに達し、その一部は 2007 年「北大山岳部 80 周年記念写真集」として発行し、翌年、澤柿教伸理事の尽力で 3 枚組の DVD としても発行された。

山岳部はヘルヴェチアヒュッテと空沼小屋の 2 棟の北大の山小屋を管理している。2006 年 7～9 月に、北大総合博物館と北大の山小屋展実行委員会が共催した「『北大の山小屋』展」では、小泉章夫委員が「ヘルヴェチアヒュッテ・ログハウス・樹木」と題した講演を行ったほか、中村委員、樋口和生会員が図録「北海道大学の山小屋」を分担執筆した。

山岳館は、山岳部現役たちの山行準備にも使われていた。たとえば、食糧のパッキングなどである。現役の装備の保管のために、花井 修会員が階段下にスライド式のユニークな収納家具を製作した。2005 年秋からは現役部員と会員の交流を兼ねた「山岳館清掃」が定例化した。

これら、山岳館の活動にかかる経費が増加していることに鑑み、山の会では、2007 年から、山岳館運営予算を山岳部補助費と同額の 20 万円に引き上げた。

4. 開かれた山岳館へ（2008～2013 年）

2008 年、対外的な仕事が増えてきた運営委員会では、代表者として委員長をおくことにした。初代の委員長は安藤久男会員である。山の会では、規模の大きくなった山岳館活動を広く会員に知ってもらう意味もあって、2008 年 10 月発行の会報 102 号から、運営委員による「山岳館たより」の連載を開始した。

一般来館者の図書閲覧の便宜をはかり、図書の館外貸し出しを可能にすることは、運営委員会の懸案の一つであった。そこで、運営委員が水曜と土曜の週 2 日、当番制で山岳館に詰めることで、当該日に図書室を一般に開放するようになった。一般開放に対応した結果、平日の時間を使える退職後の会員が委員の多くを占めるようになった。2010 年からは会員外への図書の館外貸し出しを開始し、中村委員長が著した蔵書ガイドを山岳館のウェブサイトに掲載した。また、一般の来訪者も鑑賞できるよう、1 階ホールの壁に坂本直行コーナーを設けて、作品の一部を展示した。

この時期には、市民公開の講演会活動も開始した。手始めに、2009 年、日本山書の会の

講演会を開催し、高澤光雄氏が「日高山脈開拓期のエピソード」と題した講演を行った。そして、翌 2010 年に、第 1 回市民公開山岳館講演会「南極観測を支えたスピリット」を開催、以後、年 1, 2 回の開催を継続し、現在までに 15 回を数えている。内容は、地質や生物などの自然科学や登山に関係したものが多く、講師は各分野で活躍してきた山の会会員を中心につとめてきた。これとは別に、2010 年と 2011 年には、主に山の会会員を対象とした講演会、「山岳館夜話」を理事会主催で開催した。これらの講演会の詳細は表 5 に掲げたとおりである。

図書については、2008 年、駒沢欣一会員ご遺族から約 1700 冊の蔵書と山の会の活動記録類の寄贈があり、山岳館蔵書が大きく増え、文献目録 5 号を発行した。重複していた 600 冊あまりは希望する会員に配布した。また、2011 年、ヘルヴェチアヒュッテの建設者の 1 人、山崎春雄会員の蔵書（洋書）の寄贈をうけて、書庫の一角に山崎文庫を設けた。これら山岳館の文献はすべて、澤柿理事によって、ウェブサイトにて整理、公開され、検索できるようになっている。

2011 年から北大山岳部・山の会が発行した書籍や資料をスキャンし、デジタルコンテンツとして山岳館のウェブサイトに掲載する作業に着手した。山岳部・山の会の海外遠征隊が撮影した動画類のデジタル化も行った。

2012 年 4 月、ヘルヴェチアヒュッテ建設者の 1 人、アーノルド・グブラー会員ご子息のベルンハルト・グブラー夫妻が来札された機会に、学内の施設、ファカルティハウス「エンレイソウ」で、ヘルヴェチアヒュッテ 85 周年記念講演会を開催した。工学研究院の角 幸博教授が建築家としてのヒンデルについて、グブラー氏が父、アーノルド・グブラーの思い出を、それぞれ、語った。

2013 年、小野寺弘道委員によって、四季折々の山岳館をビジュアルで紹介する Facebook「北大山岳館」が、新たに開設された。この Facebook の運営は現在、八木欣平委員に引き継がれている。

5. 北大山岳部 90 周年記念事業の拠点として（2014～2017 年）

2016 年の山岳部創立 90 周年を迎えるにあたって、山の会は海外遠征史の出版をはじめ、いくつかの記念事業を行うことになった。この時期、山岳館がそれらの事業の拠点となったのは自然な成り行きであろう。2014 年、澤柿理事の手を煩わせて、2011 年からデジタル化してきた遠征隊の動画を編集して、3 枚組の DVD「映像で見る海外遠征史」を発行した。また、海外遠征史の執筆のために、長老会員へのインタビュー、過去の遠征隊メンバーによる座談会を 3 回開催した。そうして、2015 年には記念誌「寒冷の系譜―北大山岳部 90 周年記念海外遠征史」の出版に至った。

2017 年 7 月には、記念事業の一つであった空沼小屋改修を終えて、2017 年 7 月に行われた空沼小屋再開式典に出席したスイスのパロ大使、ネルソン公使が山岳館を訪問した。

2015 年、坂本直行会員ご遺族から、高知県立坂本龍馬記念館の前田由紀枝氏の仲介で、

スケッチブック 136 冊、木版画 54 点ほか、遺品の寄贈を受けた。これまで未公開だったスケッチブックについては、一般の関心も高く、2015 年末から北海道立近代美術館で開催された「創刊 90 年『さとぼろ』とその時代」展、2016 年末に北大総合博物館で開催された「直行さんのスケッチブック展」、2017 年 8 月開催の札幌国際芸術祭「シユプールを追いかけて」、2018 年 7 月にニセコ町有島記念館で開催された坂本直行展、2021 年 12 月の高知県坂本龍馬記念館特別展、直近では 2024 年 2 月、道立帯広美術館の坂本直行展などにスケッチブックや木版画の一部を貸し出している。また、2022 年 NHK 日曜美術館「山と原野とスケッチと一農民画家坂本直行」、NHKBS プレミアム「山と原野とスケッチと一日高山脈と生きた画家、坂本直行」でも紹介された。

絵画類については、坂本直行会員のほか、北大黒百合会の会員であった卒業部員や、絵心のある会員からも 30 点あまりの油絵や水彩画の寄贈をうけ、会員外からは、ヘルヴェチアヒュッテ建設期の画学生だった清水啓三氏の油絵、一原有徳氏の版画、飯沢能布子氏の七宝焼き、芳賀淳子氏の水彩画などが寄贈されてきた。これらの作品の一部は集会室などの壁面に展示されている（表 7）。

2016 年、柏原 潔、伊藤茂男委員によって、夏場の草刈り活動が開始され、以来、両委員によって山岳館周辺的环境整備が行われている。

6. 外部からの寄贈図書増加（2018～2021 年）

2018 年、慶応大登高会の宇野彰男氏が自宅に図書室を設けて所蔵していた「ぶな文庫」の引き取りについて、登高会の吉川正幸氏から山の会東京支部を介して打診があった。これまで、山岳館では会員からの書籍を中心に受け入れてきており、外部からの大量の図書を受け入れることには、山の会内に、否定的な意見も多くあった。「ぶな文庫」の受け入れの是非について、7 月の総会で議論となったが、広く山岳愛好家に開かれた施設として受け入れることを決断し、10 月に小泉会長と藤野明治委員が登高会の吉川、岡部 紘氏と宇野家にあかね夫人を訪ねて、寄贈に関する文書を取り交わした。11 月に山岳館に搬入された書籍は、和書 2700 冊、洋書 60 冊、雑誌 31 誌におよんだ。これらは、北大山岳館に多かった自然科学分野の文献とは異なり、地誌、民俗学関連や文芸の香りのする書籍も多く、山岳館図書のレパートリーを大きく広げるものとなった。2019 年の山の会総会后に、ご遺族の宇野あかねさんと 2 人のご子息を招待して図書受領式、懇親会を開催した。懇親会には吉川・岡部氏はじめ登高会の 9 人の会員、芳賀孝郎氏はじめ日本山岳会の会員も参加して親交を深めた。

2019 年には芳賀氏の仲介で加藤泰安氏ご遺族から蔵書 138 冊の寄贈を受けた。さらに 2021 年に日本ヒマラヤ協会の大内倫文会員から、蔵書数百冊と全国の山岳会の会報や海外遠征隊の報告書類の寄贈を受けた。これらを収蔵するために、従来、閲覧室として使われてきた区画に、宇野家から寄贈された本棚を設置して、新たに書庫スペースとした。

2018 年、中村委員は「北大山岳館名著案内」の出版にとりかかり、「明治・大正・昭和

初期編」「昭和戦前・戦中期編」「昭和前期翻訳書」の3部作を完成させた。これらは、山岳館が所蔵する戦前の山岳書の一部とその著者たちを紹介する解説書である。さらに、2020年「北大山岳部先輩たちの文集—紀行・評論・エッセイ・詩・画文」を発行した。北大山岳部卒業生の評伝と著作の解説だが、中村会員の山岳部の先生・先輩への思いがこもった力作である。

7. コロナ禍による休館、そして再開（2022年～）

山岳館は北大の新型コロナウイルス感染症対策にしたがって、2020年3月から休館とした。運営委員会は、この間も、山岳館内の点検と清掃、館外の草刈りなどを継続し、再開に備えてきた。2022年台風シーズン前の9月には、懸案であった、山岳館西側に立っていたポプラの大木を伐採した。北大の生態環境マネジメントWGに危険木の指定をしていただき、数日をかけて伐採作業が行われた。

2023年5月、新型コロナウイルス感染症の5類移行をうけて、ただちに山岳館の公開を再開した。矢野実委員長は1階ホールで山岳部卒業生の事績をパネル展示で紹介する「山岳館ミニギャラリー」を新たに開始した。これまでに、山崎英雄会員のマナスル遠征時のスケッチ展、下沢英二会員のヒマラヤの写真展を開催した。同時に市民公開山岳館講演会も2023年10月と2024年2月に開催している。

山の会会員から寄贈されたピッケルなどの登山装備の展示に加え、絵画や写真パネルが山岳館の壁を飾っている。収蔵物のなかには、部員たちがルームや山小屋で書き残した手書きのノート類や山日記のほか、下野塚の坂本直行宅や南札内の男沢先生宅のお宿帳が残されている（表8）。かつて、学生時代にそこを訪れた北大の卒業生が自分の筆跡を確かめに来たこともあった。

これまでの経緯を振り返ると、この30年間にわたって、書籍・地図や画像・映像を含む資料が着実に増えてきたことがうかがえる。文献数の推移については表2に示した通りで、書籍に限っても、1万冊を優に超える文献が所蔵されている。山岳館は、蓄積された資料を駆使して、公開講演会や企画展示、表4に掲げた出版物の編集を行い、さまざまな文化活動の拠点となってきた。そして、これらの多様な活動は、ここに名前を挙げなかった人たちを含め、多くの個人の発想と行為によって、なされてきたのである。

山岳館は建設の趣意として「北大独自の学生施設となり、自然を愛する学生諸君の活動と発想の拠点となる」ことを掲げている。集会室を利用する学生団体は、コロナ前の2017年で、年間16団体にのぼり、使用日数は119日間であった。北大山岳館が、ますます多くの自然を愛する北大生に利用され、また広く文献・情報を集積して、山岳界の発展に資する施設として、維持されていくことを期待したい。

表1 北大山岳館年表

年	できごと	山の会会長	山岳部長	山岳館運営委員
1992	学内に山岳資料館を建設する構想について、神谷正男理事が廣重 力総長と折衝。9月、建設準備委員会発足	山田真弓	西 信三	山岳館建設準備委員会（東 晃委員長）
1993	総会の承認を経て、70周年記念事業として山岳館建設実行委員会を設置、東委員長の下に資金、建設、運営の小委員会をおいた。建設小委員会ではログハウスでの建設計画を立案。運営小委員会は、ライブラリ、ミーティングルーム、ラウンジの3つを山岳館の機能として提示。これらをうけて、12月、資金小委員会が募金を開始した			山岳館建設実行委員会（東委員長）。資金小委員会：中島秀雄ほか、建設小委員会：西 安信ほか、運営小委員会：高松秀彦ほか
1994	アメリカのLog Cabin Homes社からログ材を購入。10月末から伊皆設計士の監理、エルム建設の施工で建設。12月竣工			
1995	1月、館内整備。図書の本搬入、文献リストのパソコン入力。3月、北大山岳館文献目録第1号発行。3月4日落成式。3月6日、北大、廣重総長へ引き渡し式。5月、3388万円の会計報告。渡辺興亜会員から南極の地形図118枚、スイス127枚の寄贈。9月、文献目録第2号発行	杉野目 浩	松田 彊	西 信三、松田 彊、丹羽由起夫、清水 収、柳沢盛雄、現役主任幹事
1996	この年以降、山岳部部員総会、山の会理事会、総会など集会を山岳館で開催。6月、鮫島惇一郎、松田 彊会員の指揮で、周囲にアカエゾマツ、ハルニレ、コブシなどを植樹。山岳部創設期の会員遺族らからピッケルの寄贈が相次ぐ			山岳部長、西 信三、丹羽、清水、柳沢、現役主任幹事
1997	シラカンバ、イタヤカエデ、ハルニレなどを植樹			山岳部長、丹羽、清水、柳沢、現役主任幹事
1999	エルムトンネルの工事に伴い、サクシュコトニ川の流路を南に移動する掘削工事。これに伴い、北18条側からの山岳館進入路を西側に付け替えた			山岳部長、丹羽、清水、田中健太郎、現役主任幹事
2000	エルムトンネルの掘削工事（2001年開通）			
2001	前田仁一郎委員の提案で、6月と10月に、OBと現役の交流を目的とした「山岳館ピクニック」を開催	西 安信	小泉章夫	山岳部長、松田、丹羽、前田、大野百恵、現役主任幹事
2002	この年から総会後の懇親会を山岳館前で開催			
2004	4月、安藤久男会員よりネパール全土の地形図（116枚）の寄贈をうける。中村委員を中心に資料・物品の整備開始。書架、物品棚、パソコンシステムなどを更新。階段下に収納棚を新設。8月、AACK谷博氏遺族から図書300冊の寄贈			山岳部長、中村晴彦、松田、丹羽、前田、大野、現役主任幹事
2005	5月、坂本直行会員の蔵書200冊あまりを、つる夫人から受領。北大山岳館文献目録第3号発行。中村委員提案の記録写真保存事業計画を北大山岳部80周年記念事業として承認。現役部員も参加して、各世代の会員から集められた写真の取りこみ作業を開始、データベースは芝山良二会員が構築した。部員・会員を対象に図書の館外貸し出しを開始。「北大山岳部年表1926-2005」発行。10月、部員・会員の交流を兼ねた山岳館清掃開始。		鏡 邦芳	山岳部長、中村、小泉、八木欣平、柳沢、大野、現役主任幹事
2006	北大総合博物館第33回企画展示「北海道大学の山小屋」展（総合博物館・山小屋展実行委員会共催）に協力、図録「北海道大学の山小屋」を分担執筆			

年	できごと	山の会会長	山岳部長	山岳館運営委員
2007	山岳館運営予算を年20万円に引き上げた。「北大山岳部80周年記念写真集」発行			
2008	運営委員会に委員長を置いて機能強化。3月、文献目録第4号発行。6月、図書室を週2回、一般開放開始。7月、駒沢欣一会員遺族から約1700冊の図書の寄贈をうける。1階ホールに坂本直行コーナーを開設。会報102号から「山岳館たより」の連載開始。記録写真保存事業完了、7000枚超の写真を収録。「北大山岳部80周年記念写真集DVD版（3枚組）」を発行	小泉章夫		安藤久男委員長、中村晴彦、野田四郎、橋本正人、神前博、木村恒美、山田知充、山岳部長、現役主任幹事
2009	山岳館蔵書ガイドをホームページに掲載。10月、北大山岳館文献目録第5号発行。11月、日本山書の会の講演会を開催、高澤光雄氏が「日高山脈開拓期のエピソード」と題した講演を行った。日本山岳文化学会へ入会			安藤委員長、中村、橋本、神前、山口淳一、山田、山岳部長、現役主任幹事
2010	一般来館者へ図書の館外貸し出しを開始。「北大山岳館蔵書ガイド<明治・大正期、昭和期前期>」発行。5月、第1回市民公開山岳館講演会開催「南極観測を支えたスピリット」講師：渡辺興亜、澤柿教伸、樋口和生（各会員）。9月、第1回山岳館夜話、「ネパールの2年間」講師：伏見碩二。10月、第2回山岳館講演会「山岳気象と遭難」講師：中村一樹氏、安間 荘会員、高澤光雄氏。鑑部長の要請で学務部による山岳館外壁の防腐塗装実施。			中村晴彦委員長、安藤、山口、石田隆雄、松田、山田、山岳部長、現役主任幹事
2011	山崎春雄会員遺族から洋書60冊あまりの寄贈を受けて山崎文庫を設けた。松川五郎会員遺族からグブラーの著書などの寄贈。日本山岳会より80冊あまりの図書の寄贈。「北大山の会会報88-107号総目次」発行。山岳部・山の会が出版した書籍・資料のデジタル化とホームページ掲載の作業開始。物品倉庫の制作。6月、第3回山岳館講演会「上昇するヒマラヤ」講師：木崎甲子郎会員。10月、第2回山岳館夜話、「千島列島などのオットセイ、トドの生態と保全」講師：和田一雄会員。11月、第4回山岳館講演会「北海道の高山植物相の位置づけ」講師：渡邊定元会員			
2012	海外遠征隊撮影動画類（17隊）のデジタル化開始。4月、角幸博氏、ベルンハルト・グブラー氏の講演会ならびにヘルヴェチアヒュッテ85周年記念祝賀会を開催。両氏の講演録とヘルヴェチアヒュッテ85周年記念誌「建設した人々の記録」発行。6月、北大山岳館文献目録第6号発行。10月、第5回山岳館講演会「北極海・ベーリング海底から地球の気候変動を読み解く」講師：高橋孝三会員		松本伊知朗	中村委員長、安藤、山口、石田、松田、山田、小野寺弘道、山岳部長
2013	北大山岳部90周年記念誌出版委員会発足。2階に寄贈ピッケル・スキー類の展示台を製作。小野寺弘道委員によって山岳館のFacebookを開設。10月、第6回山岳館講演会「身近な山」講師：鮫島惇一郎会員			

年	できごと	山の会会長	山岳部長	山岳館運営委員
2014	2月～6月海外遠征史編集のため、長老会員へのインタビュー、遠征隊隊員による座談会（全3回）を実施。澤柿会員の協力で、「北大山岳部創立90周年記念－映像で見る海外遠征史（DVD3枚組）」発行。10月、第7回山岳館講演会「キノコと森林の関わり」 講師：五十嵐恒夫会員			小野寺委員長、中村、石田、石島行三、松田、山田、柏原 潔、山岳部長、現役主任幹事
2015	「寒冷の系譜－北大山岳部九十周年記念海外遠征史」発行。 6月、坂本直行会員旧宅で、高知県立坂本龍馬記念館の前田由紀枝氏の立合いで、坂本 宏氏からスケッチブック、写真など直行遺品の寄贈を受ける。9月、第8回山岳館講演会「ネパール報告－『2015年ネパール地震』を中心に」講師：伏見碩二会員。台風でポプラの大枝が屋根に落下、学務部に伐採を要請したが100万円の見積もりで断念。10月、月刊誌「カイ」の取材。12月～2016年3月、北海道立近代美術館で開催した「創刊90年『さとぼろ』とその時代」展に坂本直行の木版画などを貸し出し			
2016	2月、サークル会館との無線LANの不通が続き、ルーターを撤去。6月、柏原 潔、伊藤茂男委員によって、外構の草刈り活動開始。8月、山岳館文献目録第7号を発行。10月、第9回山岳館講演会「ホモ・ルーデンスの科学論・大学論－山系クラブの副産物的存在意義」講師：前田仁一郎会員。11月4日～1月9日、北大総合博物館で坂本直行生誕110年記念「直行さんのスケッチブック展」開催			小野寺委員長、石田、石島、山田、井上孝俊、矢野 実、伊藤茂男、柏原、岩間和人、森田英和、山岳部長
2017	集会室を利用する学生団体が急増（2017年は、16団体が119日使用）、サークル会館窓口を通して利用ルールを周知することにした。2月、天窓周辺の屋根の工事（雨漏り修理）。5月、中村晴彦著「北大山岳館山と探検の名著－明治・大正編」を発行。6月、第10回山岳館講演会「未だ存在しない将来世代のための「新しい山道」創り－山や森、高原や湿地の環境回復に向けたフューチャー・デザインを」講師：松田益義氏。山岳館前に放置されていた廃棄トラックが撤去された。7月、空沼小屋再開記念式典に出席されたスイス連邦のパロ大使とネルソン公使が山岳館訪問。8月～10月、札幌国際芸術祭に協力して山道具、坂本直行のスケッチブック展示。9月、第11回山岳館講演会「山と美術と音楽と」講師：佐々木幸雄会員			小野寺委員長、山田、藤野明治、井上、矢野、伊藤、柏原、岩間、森田、山岳部長
2018	5月、中村晴彦著「北大山岳館図書室名著案内－明治・大正・昭和初期編」発行。10月、第12回山岳館講演会「北海道の森林変遷史－花粉化石から復元された15万年間」講師：五十嵐八枝子会員。10月、慶応大登高会の吉川正幸、岡部紘氏と小泉会長、藤野明治委員が、故宇野彰氏宅を訪問、ご遺族と「ぶな文庫」図書の寄贈について確認文書を交換。11月、山岳館に搬入。書架を増設。12月、中村晴彦著「北大山岳館名著案内－昭和戦前・戦中期編」発行			

年	できごと	山の会会長	山岳部長	山岳館運営委員
2019	4月、大内倫文氏から閉店したつるのテーブルなどの寄贈。芳賀孝郎氏の仲介で、加藤泰安氏ご遺族から蔵書138冊の寄贈。6月、中村晴彦著「北大山岳館名著案内一昭和前期翻訳書」発行。10月、第13回山岳館講演会「世界の山々にナキウサギを訪ねる」講師：川道武男会員	鏡 邦芳		小野寺委員長、下沢英二、竹田英世、井上、矢野、伊藤、柏原、岩間、前田、森田、小泉、八木、山岳部長
2020	3月、北大の新型コロナウイルス感染症対策に伴い、山岳館を休館。ノート類のデジタル化開始。12月高知県坂本龍馬記念館特別展にスケッチブックなどを貸し出し。12月、中村晴彦著「北大山岳部 先輩たちの文集一紀行・評論・エッセイ・詩・画文」発行		石川 守	
2021	2月、大内倫文氏から蔵書数百冊と報告書類の寄贈	渡辺興亜		矢野委員長、下沢、竹田、井上、伊藤、柏原、前田、森田、小泉、八木、羽貝敏彦、戸田英明、工藤哲靖、山岳部長
2022	ルーターを設置してWiFi環境を整備。9月、矢野委員の発案で第1回山岳館ミニギャラリー「山崎英雄会員のスケッチ展ーヒマラヤを描く（第1部）」を開催。落枝の危険が懸念されていた山岳館西側のポプラの大木を伐採。10月、第2回山岳館ギャラリー（同第2部）開催。日本山岳会主催の山岳博物館等連絡会議に初参加。NHK教育、日曜美術館「山と原野とスケッチとー農民画家坂本直行」、BSプレミアム「山と原野とスケッチとー日高山脈と生きた画家、坂本直行」の取材とロケ			
2023	3月、NHK国際放送の番組「Sapporo: Ski Mountaineering Tradition」のロケ。5月、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、山岳館の一般公開を再開。第3回山岳館ミニギャラリー「下沢英二写真展ーむかし山行を共にした仲間との海外の山旅」開催。10月、第14回山岳館講演会「アフリカの現状と飢饉の克服ー食料増産による戦略」講師：山口淳一会員			矢野委員長、大内倫文、竹田、伊藤、柏原、前田、森田、小泉、八木、戸田、工藤、山岳部長
2024	2月、第15回「厳冬期 日高山脈直登沢を登る」講師：成田 啓会員、竹中源弥会員			

表2 文献数の推移

棚卸実施年	和書 (冊)	洋書 (冊)	部報・会報 (誌)	和雑誌 (誌)	洋雑誌 (誌)	地図 ¹⁾ (枚)	映像メディア ²⁾ (巻)
1995年3月	1060	104	118	28	12	77	
1995年9月	1612	108	122	31	16	391	42
2005年3月	2011	226	132	37	16	533	42
2008年3月	2713	307	180	41	22	557	47
2009年10月	3270	337	208	47	22	557	47
2012年6月	3539	456	235	60	22	557	49
2016年9月	3709	538	253	67	22	578	49
2023年8月	8047	634	344	106	22	578	69

¹⁾国内の地形図を除く、²⁾16mmフィルム、ビデオテープ、DVDなど。

部報、会報、雑誌は、冊数ではなく、タイトルごとに1誌として計数した。

書籍をはじめとする文献データベースは北大山岳館のウェブサイトから検索することができます

これらの文献は、山岳部・山の会が保有していた文献に加えて、以下の方々から寄贈していただきました

(文献データベースから転載)

山の会会員外

阿部幹雄	在田一則	安藤祥子	磯 弥須彦	伊藤寛志	岩間和美	上田茂春
太田 佑	牛木久雄	内田健一	宇野彰男	大久保五郎	大武美緒子	大塚 武
大塚 博	大塚保雄	小澤観一	小田 稔	開 尚史	柏原敏夫	霞会
角 幸博	加藤泰安	河村皆子	Gubler, Bernhard	弘南堂書店	斎藤浪子	酒井敏明
サッポロ堂書店	札幌山の会	佐野雄三	澤田巳之助	志賀孝一	重廣恒夫	清水敏一
清水 弘	高澤光雄	高畑 滋	高畑順子	滝本幸夫	竹内恒夫	谷 博
丹保憲仁	中浦皓至	中安清治	錦織英夫	日本山岳会	日本ヒマラヤ協会	芳賀孝郎
芳賀淳子	早川禎二	板東忠明	東 璋子	東川町	日比谷孟俊	深田正文
深野稔生	北海道山岳連盟	松崎中正	松田雄二	松山忠弘	三笠宮家	村本輝夫
望月達夫	安田茂男	梁田政方	山森欣一	横田 力	吉田恵治	銘農大学山岳部OB会
渡辺 隆						

山の会会員

朝比奈英三	阿女鱒山荘	荒生繁雄	有馬 純	安藤久男	安間 荘	石井次郎
石田隆雄	石本恵生	市村輝宣	今村昌耕	岩間 和人	内田武彦	及川盛也
追平雍嘉	大内倫文	大賀 皓	大森 信	岡 彦一	岡見吉郎	岡本丈夫
小野寺弘道	おばけ屋敷	柏原 潔	加納一郎	加納 隆	神前 博	川口昌宏
川道武男	河村章人	菊池三郎	木崎甲子郎	工藤哲靖	小泉章夫	越野 正
小林 年	駒澤欣一	佐伯富男	佐々保雄	佐藤行郎	坂本直行	鮫島惇一郎
澤柿教伸	山岳部29年卒業生	下沢英二	城本公孝	杉野目 浩	瀬戸三郎	銭谷竜一
ダウラギリ委員会	高橋 仁	高松秀彦	堤 亮	戸田英明	内藤 拓	永光俊一
中村晴彦	中山梯志	新妻 徹	西 安信	西村 豪	西 信博	丹羽由起夫
野田四郎	橋本誠二	初見一雄	花井 修	原田準平	原 真	東 晃
福本 駿	伏見碩二	藤原章生	伏島信治	前田栄三	前田仁一郎	松田 疆
松村 雄	松本元治朗	水上定一	向山 栄	森田英和	八木欣平	八木橋 武
山縣 浩	山口健児	山口淳一	山崎英雄	山田知充	山田真弓	吉田 勝
米山 悟	渡辺興亜	渡辺千尚				

表3 地形図一覧（国内を除く）

主要対象国	国・地域	縮尺（分の1）	枚数	備考
ニュージーランド	エグモント国立公園	40,000	1	
ニュージーランド	クック山ほか	50,000	3	
ニュージーランド	クック山	63,360	1	
ニュージーランド	ロトルア	60,000	1	
ニュージーランド	ミルフォード	75,000	1	
ニュージーランド	トンガリロ国立公園	80,000	1	
ニュージーランド	各地国立公園など	100,000	3	
ニュージーランド	フィヨルドランド国立公園	250,000	1	
ロシア	カムチャツカ・アリューシャン列島西部	1,000,000	1	アメリカ国防省 ONC E-11
ロシア	カムチャツカ半島北部	1,000,000	1	アメリカ国防省 ONC D-9
ロシア	カムチャツカ半島	200,000	18	
ロシア	千島	50,000	54	陸地測量部、国土地理院
ロシア	千島	200,000	10	国土地理院
中国	キリアン・シャン	250,000	1	
中国	キリアン・シャン	700,000	1	
中国	チョゴリほか、山岳地域	100,000	9	
中国	ミニヤコンカ	25,000	1	
中国	ケリヤ河流域	400,000	1	
中国	中国・インド・ネパール	500,000		アメリカ国防省 TPC H-9A
中国	中国	500,000	4	アメリカ国防省 TPC F-7D, F-9D, G-7B,C
中国	中国・インド・パキスタン	500,000	1	アメリカ国防省 TPC G-7D
中国	中国・モンゴル・ロシア	500,000	1	アメリカ国防省 TPC F-7A
中国	中国・モンゴル	500,000	7	アメリカ国防省 TPC F-7B,C, F-8B,C,D, F-9A,B
中国	中国・北朝鮮・ロシア	500,000	1	アメリカ国防省 TPC F-9C
中国	中国・フィリピン	500,000	1	アメリカ国防省 TPC J-12B
中国	中国、台湾北部	1,000,000	1	アメリカ国防省 ONC H-12
台湾	台湾南部、フィリピン北部	1,000,000	1	アメリカ国防省 ONC J-12
台湾	山岳地域	50,000	22	創意出版社
モンゴル	モンゴル	500,000	1	アメリカ国防省 TPC F-8A
インドネシア	インドネシア	1,000,000	3	アメリカ国防省 ONC N-12,M-10,11
ブータン	ブータン・インド・中国	500,000	1	アメリカ国防省 TPC H-10B
ブータン	ブータン・中国・インド・ネパール	500,000	1	アメリカ国防省 TPC H-9B
ブータン	ブータン・中国・インド	500,000	1	アメリカ国防省 TPC H-10A
ネパール	全国	50,000	118	ネパール測量省
ネパール	東部・西部、各1枚	500,000	2	
ネパール	ネパール	250,000	19	衛星写真
ネパール	東部・西部、各1枚	506,880	2	英国国防省
ネパール	Tamba Koshi~Likhu Khola	50,000	3	
ネパール	Dudh Koshi	50,000	2	
ネパール	Khumbu Himal	50,000	3	
ネパール	Annapurna	100,000	2	

主要対象国	国・地域	縮尺（分の1）	枚数	備考
ネパール	Shoron/Hinku	50,000	1	
ネパール	Langtang Himal (東部・西部、各1枚)	50,000	2	
ネパール	Helambu-Langtang	100,000	1	
ネパール	Rolwaling Himal	50,000	4	
ネパール	Kathmandu Valley	50,000	1	
ネパール	Kathmandu Valley	10,000	1	
ネパール	ドルポ	300,000	1	
ネパール	チョモランマ（エベレスト）	25,000	3	
インド	シッキム・ヒマラヤ	150,000	1	
インド	ガルワール・ヒマラヤ、東部・西部各1枚	150,000	2	
パキスタン	バツーラ氷河流域	60,000	1	
パキスタン	カラコルム流域図、東部・西部各1枚	250,000	2	
パキスタン	ヒスパー～ピアフォ氷河流域	235,440	1	英国王立地理学会、シプトン (1939) 原図
パキスタン	ナンガ・パルバット	50,000	1	
アフガニスタン	アフガニスタン	500,000	1	アメリカ国防省 TPC G-7A
アフガニスタン	アフガニスタン・中国・ロシア・パキスタン	500,000	1	アメリカ国防省 TPC G-6B
アフガニスタン	アフガニスタン	3,000,000	1	Oxford Cartographers
アフガニスタン	アフガニスタン、中国、インド、パキスタン、ロシア	1,000,000	1	アメリカ国防省 ONC G-7
イラン	イラン・イラク・アフガニスタン・パキスタン・インド・ロシア	3,000,000	1	GIZMAP (ハンガリー)
イスラエル	エルサレム周辺	850,000	1	
エジプト	ナイル川流域	850,000	1	
ケニア	キリマンジャロ	100,000	1	
ケニア	ケニア山	25,000	1	
ケニア	ケニア、タンザニア北部	1,000,000	1	
ウガンダ	ルエンゾリ	25,000	1	
スイス	スイスアルプス	50,000	27	
スイス	スイスアルプス	25,000	100	
カナダ	Mount Robson Park	125,000	1	
カナダ	Mistaya Lake	50,000	1	
カナダ	Mount Goodsir	50,000	1	
カナダ	Osoyoos	50,000	1	
カナダ	Banf, Kootenay & Yoho National Parks	200,000	1	
カナダ	Jasper National Parks	200,000	1	
カナダ	Mount Redelstroke & Glacier National Parks	70,000	1	
カナダ	Columbia Icefield	50,000	1	
カナダ	Valemont	50,000	1	
アメリカ	Mount Mackinley	50,000	1	
アメリカ	Denali National Park and Preserve	250,000	1	
アメリカ	Rocky Mountain National Park	62,500	1	
アメリカ	Yosemite National Park and Vicinity	125,000	1	
チリ	Cordillera Real Nord	50,000	1	

主要対象国	国・地域	縮尺（分の1）	枚数	備考
チリ	Cordillera Real Sud	50,000	1	
チリ	Cerro Fitz Roy	50,000	1	
チリ	Hielo Patagonico Sur Parte Norte	300,000	1	
チリ	Hielo Patagonico Sur	300,000	1	
チリ	Cordillera Darwin	250,000	1	
チリ	Cordillera de Blanca Parte sur	100,000	1	
チリ	Cordillera de Blanca und Mittleres Santa-Tal	100,000	1	
チリ	Cordillera de Huayhussh	50,000	1	
極東アジア	中国、朝鮮半島、日本	2,000,000	1	アメリカ国防省 JNC-26
東南アジア	中国・ラオス・タイ・ベトナム	1,000,000	1	アメリカ国防省 ONC J-12
東南アジア	カンボジア、ラオス、タイ、ベトナム	1,000,000	1	アメリカ国防省 ONC K-10
東南アジア	ビルマ、カンボジア、タイ	1,000,000	1	アメリカ国防省 ONC K-9
東南アジア	バングラデシュ、ブータン、ビルマ、中国、インド	1,000,000	1	アメリカ国防省 ONC H-10
東南アジア	バングラデシュ、ビルマ、中国、ラオス、インド、タイ、ベトナム、	1,000,000	1	アメリカ国防省 ONC J-10
アジア	バングラデシュ、インド	1,000,000	1	アメリカ国防省 ONC J-9
アジア	ネパール、ブータン、バングラデシュ、中国、インド	1,000,000	1	アメリカ国防省 ONC H-9
アジア	アジア東部、中部各1枚	5,000,000	2	アメリカ国防省 GNC-5,13
アジア	アジア西部、中東	5,000,000	1	アメリカ国防省 GNC-12
太平洋	北西部	2,000,000	1	アメリカ国防省 JNC-38
南極	南極	25,000	4	国土地理院
南極	南極	2,000,000	1	国土地理院
南極	南極	1,000,000	3	国土地理院
南極	南極	250,000	7	国土地理院（衛星画像合成図）
南極	南極	2,500	11	国土地理院（航空写真）
南極	南極	5,000	4	国土地理院
南極	南極	50,000	21	国土地理院
南極	南極	25,000	67	国土地理院
北極	北極	50,000	3	
北極	北極	100,000	1	
北極	北極	1,000,000	1	

表4 山岳館が編集に関わった出版物

発行年	タイトル	発行	備考
2005	北大山岳部年表1926-2005	北大山岳部・山の会	
2006	北海道大学の山小屋	北大山小屋展実行委員会・ 北大総合博物館	
2007	北大山岳部80周年記念写真集	北大山岳部・山の会	
2008	北大山岳部80周年記念写真集DVD版（3枚組）	北大山岳部・山の会	澤柿教伸制作
2010	第1回山岳館講演集 南極観測を支えたスピリットー探検から研究へ	北大山岳館	
	第2回山岳館講演集 山岳気象と遭難ー検証から実践へ	北大山岳館	
2011	北大山の会会報（88～107号）総目次	北大山の会	
	第3回山岳館講演集 上昇するヒマラヤー造山帯研究の大先達語る	北大山岳館	
2012	ヘルヴェチアヒュッテ八十五周年ー建設した人々の記録	北大山岳館	
	85th anniversary HELVETIA LODGE, 85 years AACH	北大山岳館	ベルンハルト・グ ブラー氏講演録
	建築家マックス・ヒンデルとヘルヴェチアヒュッテ	北大山岳館	角 幸博氏講演録
2014	北大山岳部創立90周年記念ー映像で見る海外遠征史（DVD3枚組）	北大山岳部・山の会	澤柿教伸制作
2015	寒冷の系譜ー北大山岳部90周年記念海外遠征史	北大山の会	
2016	坂本直行生誕110年記念 直行さんのスケッチブック	北大総合博物館・北大山岳 館・（株）秀岳荘	展示会図録
2017	北大山岳館山と探検の名著ー明治・大正編	北大山岳館	中村晴彦著
2018	北大山岳館名著案内ー昭和戦前・戦中期編	北大山岳館	中村晴彦著
2019	北大山岳館名著案内ー明治・大正・昭和初期編	北大山岳館	中村晴彦著
2019	北大山岳館名著案内ー昭和前期翻訳書	北大山岳館	中村晴彦著
2020	北大山岳部 先輩たちの文集ー紀行・評論・エッセイ・詩・ 画文	北大山岳館	中村晴彦著

表5 講演会・展示会

年月	タイトル	講師
2009年11月	日本山書の会講演会「北大山岳館蔵書と展示資料」「日高山脈開拓期のエピソード」	中村晴彦、高澤光雄
2010年5月	第1回市民公開山岳館講演会「南極観測を支えたスピリット」	渡辺興亜、澤柿教伸、樋口和生
2010年9月	第1回山岳館夜話「ネパールの2年間」	伏見碩二
2010年10月	第2回山岳館講演会「山岳気象と遭難」	中村一樹、安間 荘、高澤光雄
2011年6月	第3回山岳館講演会「上昇するヒマラヤ」	木崎甲子郎
2011年10月	第2回山岳館夜話「千島列島などのオットセイ、トドの生態と保全」	和田一雄
2011年11月	第4回山岳館講演会「北海道の高山植物相の位置づけ」	渡邊定元
2012年4月	ヘルヴェチアヒュッテ八十五周年記念祝賀会での講演「建築家マックス・ヒンデルとヘルヴェチアヒュッテ」「85th anniversary HELVETIA LODGE, 85 years AACH」	角 幸博、ベルンハルト・グブラー
2012年10月	第5回山岳館講演会「北極海・ベーリング海底から地球の気候変動を読み解く」	高橋孝三
2013年10月	第6回山岳館講演会「身近な山」	鮫島惇一郎
2014年10月	第7回山岳館講演会「キノコと森林の関わり」	五十嵐恒夫
2015年9月	第8回山岳館講演会「ネパール報告—2015年ネパール地震を中心に」	伏見碩二
2016年10月	第9回山岳館講演会「ホモ・ルーデンスの科学論・大学論—山系クラブの副産物的存在意義」	前田仁一郎
2017年6月	第10回山岳館講演会「未だ存在しない将来世代のための新しい山道創り—山や森、高原や湿地の環境回復に向けたフューチャー・デザインを」	松田益義
2017年9月	第11回山岳館講演会「山と美術と音楽と」	佐々木幸雄
2018年10月	第12回山岳館講演会「北海道の森林変遷史—花粉化石から復元された15万年間」	五十嵐八枝子
2019年10月	第13回山岳館講演会「世界の山々にナキウサギを訪ねる」	川道武男
2022年9月	第1回山岳館ギャラリー「山崎英雄会員のスケッチ展—ヒマラヤを描く（第1部）」	
2022年10月	第2回山岳館ギャラリー「山崎英雄会員のスケッチ展—ヒマラヤを描く（第2部）」	
2023年5月	第3回山岳館ギャラリー「下沢英二写真展—むかし山行を共にした仲間との海外の山旅」	
2023年10月	第14回山岳館講演会「アフリカの現状と飢饉の克服—食料増産による戦略」	山口淳一
2024年2月	第15回山岳館講演会「厳冬期 日高山脈直登沢を登る」	成田 啓、竹中源弥

表6 収蔵物（登山装備）

品名	所有者（寄贈者）	寄贈年
スキー		
単板 L=198cm、竹製一本杖（L=213cm）、リリエンフェルト式締具	東北帝大農科大学？（北大博物館）	2013
ヒッコリー材単板 L=190cm、フィットフェルト締具（FRITSCH & Co.）	山崎春雄	
イタヤ材単板 L=200cm、フィットフェルト締具（芳賀商店）	朝比奈英三	
イタヤ材単板 L=190cm、エッジ付、フィットフェルト締具（芳賀商店）	今村昌耕	
ゾンメルシー L=130cm、フィットフェルト締具	今村昌耕	
ゾンメルシー L=131cm、フィットフェルト締具	不明	
ゾンメルシー L=130cm、フィットフェルト締具（秀岳荘）	熊野純男	
イタヤ単板 L=164cm、エッジ付、カンダハー締具（中村スキー）	鮫島惇一郎	2017
イタヤ単板 L=210cm、エッジ付、カンダハー締具	佐々木幸雄	2013
イタヤ単板 L=195cm、エッジ付、カンダハー締具（秀岳荘）	庵谷 晃	2013
ピッケル		
ALFRED BHEND	山崎春雄	
KADOTA（1932年製作）	坂本直行	
BHEND	山口健児	1996
CHR. SHENK	井田 清（小平俊平遺族）	
CHR. SHENK	渡辺千尚	1996
ALFRED BHEND	桜井信雄	1996
CHR. SHENK	安田一次	
KADOTA	中野征紀	1996
CHR. SHENK	四手井綱彦（四手井靖彦）	2008
PRIMA	佐々保雄（斉藤浪子）	
KADOTA	今村昌耕	
山内東一郎	菊池 徹・三郎	2008
KADOTA（穴あき）	西 安信	
Charlet-Moser（穴あき、ピックに刻み入り）	石田隆雄	
森谷昭一（穴あき）	毛利元一（毛利立夫）	2011
森谷昭一（最終作）	北大山岳部	2008
KADOTA BERGHEIL 4本	北大山岳部	
アイゼン		
PRIMA（1931年購入）	山崎春雄	
FRITSCH & Co.	渡辺千尚	
PRIMA	安田一次	
KADOTA	朝比奈英三	
KADOTA	今村昌耕	
PRIMA	永光俊一	
KADOTA	熊野純男	
北一（鉄道のレール材を再利用して1958年に製作）	石田隆雄	
その他		
麻ザイル（1931年頃、グリンデルヴァルドで購入）	山崎春雄	
輪かん	安田一次	
三本歯アイゼン	安田一次	

品名	所有者（寄贈者）	寄贈年
岩登りハンマー（1935年門田製）	朝比奈英三	
アルコール用コッヘルバーナー	朝比奈英三、今村昌耕	
アザラシ皮シール	朝比奈英三、今村昌耕、熊野純男	
アノラック（藤井スポーツ店）	今村昌耕	
サブブックザック（片桐テント）	今村昌耕	
キスリングザック（片桐テント）	今村昌耕	
携帯用蠟燭ランタン	田中喜左衛門（小泉章夫）	2013

表7 収蔵物（絵画類）

作者	品名	備考
坂本直行	初夏の南日高（油絵、40×31cm）	坂本つる氏寄贈
	晩秋の南日高（油絵、40×31cm）	坂本つる氏寄贈
	初夏の大雪山（油絵、40×31cm）	坂本つる氏寄贈
	七つ沼カール（水彩画、35×26cm、1959年制作）	坂本つる氏寄贈
	原野の立枯れ（水彩画、25×20cm、1931年制作）	坂本つる氏寄贈
	木版画54点	2015年坂本宏氏寄贈
	スケッチブック136冊	2015年坂本宏氏寄贈
	十勝岳中茶屋（ペン画、16×11cm、1929年制作）	2012年今村昌耕会員が熊野純男会員から贈られたものを寄贈
	紫陽花（水彩画、12×17.5cm）	在田一則氏寄贈
	コイボクサツナイ川上流（水彩画、23×28cm）	
	友の死せる谷（水彩画、23×28cm、1940年制作）	
	日高山脈（油絵、33×24cm、1955年頃に制作）	2008年熊野純男会員寄贈
	日高山脈（油絵、60×45cm）	2022年大滝セミナーハウスより移管
	「北の山」表紙デザイン画（10点）	西 信博会員寄贈
	山岳部冬山支援絵葉書（8点）	西 信博会員寄贈
	ヘルヴェチアヒュッテ（水彩画、22×17cm）	大内倫文会員寄贈
	江幡三郎	オコタンペ湖（油絵、45.5×37.9cm）
星光一	初雪の愛別岳（油絵10号、1965年制作）	2021年杉野目 浩会員寄贈
住宮省三	恵迪寮付近より近郊の山々（ペン画、24×8cm）	今村昌耕会員寄贈
山崎英雄	マナスル遠征時のスケッチ画多数	2018年山崎淳子氏寄贈
木崎甲子郎	断崖ーヒムルンへの道（油絵50号）	2002年寄贈
	ヒムルンヒマール（油絵20号）	2003年寄贈
	ブルーアイス（油絵、65×43cm）	2012年八木信子氏寄贈
鮫島惇一郎	冬のヘルヴェチア（写真、70×55cm）	2018年寄贈。1962年北海道山岳写真連盟コンテストで一席
野田四郎	エブイヨトロマップの秋（油絵、33×45cm）	2015年寄贈
	リシガンガ無名峰（油絵、32×41cm）	2015年寄贈
	無題（油絵、41×32cm）	2015年寄贈
	空沼岳（空沼二股付近から）（水彩画、25×21cm）	2015年寄贈
	里芋（墨彩画、26×20cm）	2015年寄贈
	古河記念講堂（水彩画、25×22cm）	2015年寄贈
	玉葱（墨彩画、25×22cm）	2015年寄贈
	柘榴（墨彩画、25×22cm）	2015年寄贈
	リンゴの花（墨彩画、25×22cm）	2015年寄贈
	札幌岳秋色（水彩画、28×21cm）	2015年寄贈
	くわい（墨彩画、26×23cm）	2015年寄贈
	カサブランカ（水彩画、24×33cm）	2015年寄贈
	グランドジョラス（水彩画、43×32cm）	2015年寄贈
	ニルカンタ（C2）（水彩画、43×33cm）	2015年寄贈
	旧石山選鉱場（油絵、45×33cm）	2015年寄贈
	アサバスカ氷河（水彩画、45×33cm）	2015年寄贈
	ベルナーオーバーランド（水彩画、45×32cm）	2015年寄贈
	リシガンガ（水彩画、45×35cm）	2015年寄贈
	小樽赤岩（油絵、45×54cm、1967年制作）	2015年寄贈
	地安門（墨彩画、22×25cm）	2015年寄贈

作者	品名	備考
佐々木幸雄	カムエク〜1823m峯（油絵、91×73cm）	2002年制作
	ヘルヴェチア・ヒュッテ（油絵、70×56cm）	2012年制作
清水啓三	ヘルヴェチアヒュッテと熊たち（油絵、1928年制作）	2018年山崎淳子氏寄贈
マックス・ ヒンデル	梓川溪谷の民家（20×29cm）	1935年頃制作、山崎春雄会員に贈られたものを2011年に山崎英雄会員が寄贈
飯山 勇	富士山（油絵、45×60cm）	福澤ヨシ子氏寄贈
一原有徳	Mt. Ashibetsu 1968（版画、38×24cm）	西 信博会員寄贈
今村朋信	空沼小屋（水彩画）	2017年大内倫文会員寄贈
飯沢能布子	ハマヌーンのゆり（有線七宝焼き、48×69.5cm、1980年制作）	背景にアマダブラム
	春の譜（有線七宝焼き、55×52cm、1986年制作）	ニペソツがモデル
芳賀淳子	北大山岳館（水彩画、15×20cm）	2012年寄贈

表8 収蔵物（ノート類）

品名	備考
文武会山岳部記録1, 2 (1926~1942年)	
庶務記録12~14 (1938~1941年)	
主任幹事日誌8~10 (1937~1962年)	
幹事日誌11 (1962~1973年)	
例会、幹事会記録5冊 (1941~1968年)	
北大山岳部合宿記録15 (1952~1961年)	
ルームノート1~56 (1931~2001年)	
ヘルヴェチアヒュッテ宿泊者名簿8冊 (1927~1996年)	
ヘルヴェチアヒュッテカメラデンプーフ33冊 (部員用/一般用)	
空沼小屋宿泊者名簿6冊 (1959~1981年)	
空沼小屋ヒュッテデンプーフ26冊 (部員用/一般用)	
山崎春雄関係文書ファイル	
松川五郎関係文書ファイル	
山日記 (有馬 洋、1934~1938年)	2009年有馬宣子氏から寄贈
山日記 (清水誠吉、1938年)	2009年有馬宣子氏から寄贈
山日記 (羽田喜久男、1938年)	2009年有馬宣子氏から寄贈
山日記 (有馬 純、1935、1938年)	2009年有馬宣子氏から寄贈
坂本直行宅御宿帳 No.1 ~4 (1936~1965年)	
男沢先生宅御宿帳 2~4号 (1941~1952年)	
駒沢欣一会員所蔵文書ファイル (1941~1975)	
つるノート5冊 (1965~2000年)	
ハゲ天ノート2冊 (1958~1963年)	
カトマンズクラブハウス日誌1~5 (1975~2004年)	
テーチス会資料、1箱	
遭難処理関係書類 (札内川ほか)	
バルンツェ・ダウラギリほか遠征隊関係資料	
カムチャツカ関係資料	
写真・アルバム類	

表9 収蔵物（その他）

品名	寄贈者（寄贈年）
朝日体育賞（冬季ヒマラヤ遠征隊、団体受賞）1984年	
ヘルヴェチアヒュッテ模型（山崎英雄会員作）	山崎淳子氏（2018）
ブロンズ像「直行さん」（峯 孝制作、レプリカ）	坂本 宏氏（2015）
空沼小屋創建時の杣角土台の一部（エゾマツ、114年輪）	
つる30周年記念のエーデルワイスの木彫	大内倫文会員（2019）
つるの丸太輪切りテーブル（シナ材、2卓）	大内倫文会員（2019）
smoky quartz（煙水晶、台座付き）	ベルンハルト・グブラー氏（2012）

北大山岳館の30年

発行 北大山の会 山岳館運営委員会

矢野 実(委員長)、大内倫文、伊藤茂男、柏原 潔、竹田英世、
前田仁一郎、森田英和、小泉章夫、八木欣平、戸田英明、
工藤哲靖、石川 守(山岳部長)、中村晴彦(顧問)

印刷 ジオ・プレス

2024年4月発行

